

令和3年度 第2回（通算第49回）
山梨県立博物館 運営委員会 次第

令和3年12月10日（金）午後2時～3時30分
博物館 生涯学習室

開 会

1 あいさつ

2 議 事

〈 審 議 〉

- (1) 令和4年度の企画展・シンボル展および令和5年度の企画展計画について 【資料1】

〈 報 告 〉

- (1) 令和4年度の調査研究計画について 【資料2】
- (2) 開催済み展覧会について 【資料3】
- ・シンボル展「生誕200年 若尾逸平」
 - ・企画展「特撮のDNA ～ゴジラ、富士山にあらわる～」
 - ・企画展「日蓮聖人と法華文化」
- (3) 資料・情報委員会の開催状況について 【資料4】
- (4) 利用者状況について 【資料5】
- (5) みんなでつくる博物館協議会の開催状況について 【資料6】

3 その他

閉 会

令和4年度の調査研究計画について

令和4年度 新規研究候補

番号	種目	名称	担当者	時期	期間	備考
1	基盤研究 (C)	大正・昭和戦前期における民営鉄道事業と地域形成	小畑	2022～2025年度	4年間	
2	基盤研究 (C)	戦国大名家臣の存在形態と近世以降の動向に関する研究	海老沼	2022～2025年度	4年間	
3	基盤研究 (C)	比較藩研究の基礎作業―甲府徳川家支配期の甲府藩を素材に―	中野	2022～2024年度	3年間	
4	基盤研究 (C)	浮世絵師の地方における活動の基礎的研究	松田	2022～2024年度	3年間	
5	基盤研究 (B)	戦国期の七条西伝所の宮内卿康清と康住の作例における自然科学的な検証を交えた再評価 (研究代表者：東京藝術大学 岡田清雄教授)	近藤・西順 (分担)	2022～2024年度	3年間	
6	基盤研究 (B)	背後世界との関係を媒介する仏像の研究―納入品と立地に着目して (研究代表者：早稲田大学 川瀬由照教授)	近藤 (分担)	2022～2025年度	4年間	
7	基盤研究 (A)	生命受容に基づく人間家畜相互関係の成立と深化に関する学融合的パラダイムシフト (研究代表者：東京大学教授 清藤泰紀教授)	山田 (分担)	2022～2025年度	4年間	
8	挑戦的研究 (開拓)	社会転換期における地域アーカイブズ全国調査の検証と新たな方法の開拓 (研究代表者：国文学研究資料館 渡辺浩一教授)	中野 (分担)	2020～2023年度	4年間	採択済、今年度より分担者として参加

令和 4 年度（2022 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
 ○小区分 日本史関連
 ○研究代表者氏名 小畑茂雄
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 学芸課
 ○職 学芸員
 ○学位 修士（史学）
 ○エフオー ト 25%
 ○研究課題名 大正・昭和戦前期における民営鉄道事業と地域形成
 ○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 4 年度	1,835	1,040	305	217	200	73
令和 5 年度	954	100	224	357	200	73
令和 6 年度	846	100	224	282	167	73
令和 7 年度	1,347	100	360	147	167	573
総計	4,982	1,340	1,113	1,003	734	792

○研究目的（概要）

近代日本の産業と社会資本の形成には、多くの財閥が中心的な役割を果たしている。そのなかでも、地方財閥と分類されるものがいくつかあり、地方の資本が特定分野の企業などを支配的な経営をした事例があった。東京の鉄道や電力といった社会資本の経営を握った「甲州財閥」も地方財閥のひとつに数えられるが、その財政的基盤は地域的な投資家の連合によって形成されていたことが先行研究によって明らかにされている。ところが、大正時代以降には東京地下鉄道を設立した早川徳次など、地主経営などの固有の資本を持たないにも関わらず、「甲州財閥」の事業群の一翼を担った存在が登場している。早川の地下鉄事業については、その成立過程についての研究もほとんどなされていないため、本研究ではこの早川徳次を中心に分析し、「甲州財閥」という地方財閥のあり方を捉えなおす作業とともに、日本初の地下鉄となったこの事業を、鉄道・交通史の位置づけから評価することにも取り組んでいきたい。手法としては、早川の事業形成の基盤となったであろう地域的なつながりを明らかにしつつ、その事業を財政面や政策面でサポートしたと考えられる学閥など、「甲州財閥」以外の集団との関係についての考察を実証的に行う。また、同時期の東京市会などの政界や都市政策を総合的に分析し、早川が地下鉄を実現したプロセスを、早川個人・各集団との連携・都市および交通の発達史の観点から、多面的に明らかにしていきたいと考えている。

令和 4 年度（2022 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
 ○小区分 日本史関連
 ○研究代表者氏名 海老沼真治
 ○研究分担者氏名 中野賢治
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 学芸課
 ○職 学芸員
 ○学位 修士
 ○エフオー ト 30%（分担者 10%）
 ○研究課題名 戦国大名家臣の存在形態と近世以降の動向に関する研究
 ○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 4 年度	1,608	1,260	140	100	80	28
令和 5 年度	806	200	50	280	200	76
令和 6 年度	896	200	70	300	200	126
令和 7 年度	732	150	30	140	80	332
総計	4,042	1,810	290	820	560	562

○研究目的（概要）

戦国大名研究、戦国大名家臣研究は、関係史料の収集・編纂が進められる中で大きく進展し、とくに近年では家臣の家に代々伝わった文書群（家伝文書）の存在が注目されており、応募者も甲斐武田氏家臣山本菅助家の家伝文書に関する研究を継続している。本研究では、上記の研究を土台として、特に戦国期の大名発給文書等の一次史料と、近世以降に作成された系譜等の二次史料を重点的に収集し、これら史料の総合的な調査・分析を通して、戦国大名家臣の系譜関係や身分など存在のあり方を明らかにする。また家臣たちの近世における動向や、系譜類作成の背景等を考察する。これにより、①戦国大名家臣研究の基礎資料の整備・充実を図り、大名家臣団の構造を詳細に追究すること、②家臣の近世における動向の分析から、中近世移行期武家社会の特質を見出すこと、③戦国大名家臣研究における系譜史料の意義を明らかにし、研究に活用するための方法論を構築することを目指す。

令和 4 年度（2022 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究(C)
- 小区分 日本史関連
- 研究代表者氏名 中野 賢治
- 所属研究機関 山梨県立博物館
- 部局 学芸課
- 職 学芸員
- 学位 修士（文学）
- エフオート 25%
- 研究課題名 比較藩研究の基礎作業—甲府徳川家支配期の甲府藩を素材に

○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和4年度	2,292	1,000	500	152	340	300
令和5年度	1,356	0	500	216	340	300
令和6年度	1,292	0	500	152	340	300

○研究目的（概要）

近年の藩研究は、これまでに積み上げられてきた個別具体的な研究蓄積を踏まえ、藩を横断的に比較してその特徴を分析し、近世社会の存立の根本を問うという段階に至っている。しかし、それらの素材となりうる藩は限られており、視点も限定されてしまっている。そこで、これまでの藩研究との比較を意識しつつ、新しい類型の藩を研究の俎上に載せる必要がある。本研究ではその素材として、徳川一門大名として幕府によって政策的に創出・解体され、地域社会との関係が希薄な甲府徳川家を取りあげる。甲府徳川家の藩政の実像はまったく明らかになっていない。本研究では、甲府藩の支配の実現過程に注目し、その行政機構における人的構成を明らかにして、他藩との比較によってその特徴を示す。成立に幕府の意向が強く関与した甲府徳川家の地域支配の実情を明らかにすることによって、幕府が藩による地域支配をどのように認識していたか、幕府による藩の理念型を考察し提示する。

令和 4 年度（2022 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
- 小区分 美術史関連
- 研究代表者氏名 松田 美沙子
- 所属研究機関 山梨県立博物館
- 部局 山梨県立博物館
- 職 学芸員
- 学位 修士
- エフォート 30%
- 研究課題名 浮世絵師の地方における活動の基礎的研究
- 研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 4 年度	1,732	559	550	496	71	56
令和 5 年度	1,968	0	480	1,290	142	56
令和 6 年度	1,278	0	400	280	142	456
総計	4,978	559	1,430	2,066	355	568

○研究目的（概要）

浮世絵研究の主軸は“江戸”で作成された華やかな錦絵を中心とする作品論であるが、浮世絵師たちは江戸以外の“地方”を題材とした名所絵も手掛け、また江戸近郊を中心とする地方に赴いて実際に制作活動を行い、作品を残している。例えば、山梨県における歌川広重や長野県での葛飾北斎の活躍など、すでに研究報告がなされている例も散見でき、江戸以外の地で往時の主要な浮世絵師たちが活動していることがわかっている。

本研究では、地方における江戸の浮世絵師の活動に焦点を当て、絵画資料のみならず、歴史資料からも言及して、“地方と絵師”という関係性から調査を進め、より詳細な絵師の一面を明らかにすることを目標とする。また、正確な浮世絵師の研究を行うために必要不可欠であり、今後の浮世絵研究を飛躍的に前進させることが可能となる。浮世絵師の地方における活動内容に関する基礎データの作成及び公開を最終目的とする。

令和3年度 シンボル展
「生誕 200 年 若尾逸平」
終了報告

1 概要

【内容】

若尾逸平は、大正2年（1913）9月7日に亡くなるので、満年齢で92歳、当時の数え年でいえば94歳の長寿を保った。その生涯は江戸時代の終わりから明治時代のすべてを含み、近世から近代への移り変わり、社会や文化の大きな変化の歴史そのものであるといえる。また、逸平は近代前半の山梨において、最大級の政治・経済上の影響力を持った人物へと成長していることから、その生涯をみることは、山梨や日本の近代史のあゆみや性格をみることにもつながっているとみえる。

逸平が生きた約100年間は、まさに現在の私たちの社会や文化の礎を築いた「近代」という時代の重要な前半部分である。そして、逸平が去ってからの約100年間を経過したことで、逸平の約100年の生涯を「歴史」として見渡すことができる、「生誕200年」というのはそうしたタイミングではないかと思われる。逸平の没後、山梨や東京にて「甲州財閥」として君臨した若尾家は実業界における地位を失い、関係する資料も多くは残されていないが、本展を通じて歴史の舞台上で活躍した逸平の等身大の人物像や、逸平の生涯からみえてくる日本や山梨の近代史のあゆみについて、県民を中心として関心を寄せていただく機会とした。

【期間】 令和3年5月22日（土）～6月28日（月）

会期日数 38日（開館日数 33日）

【主催】 山梨県立博物館

【観覧料】 常設展観覧料 一般520（420）円、大学生220（170）円

※（）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引

【主な展示資料】 展示資料数 63点

○当館所蔵資料

- ・碁盤一式 ・若尾逸平扇面 ・若尾逸平書蹟
- ・横浜御免 生糸損金鏡 ・貴族院多額納税者議員互選名簿 ・おもちゃ籠
- ・若尾逸平伝記序文起草遷延詫び状（渋沢栄一書簡）

○借用資料

- ・若尾逸平一代図屏風（南アルプス市立美術館蔵）
- ・笹子隧道顕彰記念碑拓本（山梨中銀金融資料館蔵）
- ・東京電燈株式申込名簿（山梨中銀金融資料館蔵）

【関連イベント】

○かいじあむ講座①

- ・演題 若尾逸平と鉄道事業

講師 小畑茂雄（当館学芸員）

日時 令和3年5月23日（日） 13時30分から15時まで 会場 生涯学習室

参加者 30名

○かいじあむ講座②

- ・演題 伝記資料から見る若尾逸平像の再構築

講師 小畑茂雄（当館学芸員）

日時 令和3年6月13日（日）【山梨県による新型コロナウイルス感染防止への臨時特別協力要請により延期】 → 6月27日（日）

13時30分から15時まで 会場 生涯学習室

参加者 30名

○かいじあむ古文書講座

- ・演題 若尾逸平に関する古文書を読む

講師 小畑茂雄（当館学芸員）

日時 令和3年6月26日（土）予定

○かいじあむ子ども工房

- ・内容 若尾銀行の立体カードを作ろう ・日時 令和3年5月23日（日）

- ・内容 若尾逸平のプラバンストラップを作ろう ・日時 6月6日（日）

- ・内容 「若尾逸平物語」～逸平と幾造～ ・日時 6月27日（日）

いずれも10時30分から15時まで

○ギャラリートーク

- ・令和3年5月22日（土）、6月6日（日）、

6月20日（日）【延期】 → 6月26日（土）

15時から1時間程度

【発行物】 リーフレット A4・8頁（頒価250円 完売）

2 入場者数

【入館者数】 1,944名（1日平均入館者数：59名）

3 総括

- ・令和2年度の同時期に開催の予定も、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）の拡大を受けた緊急事態宣言発出により、今年度の開催となった。
- ・新型コロナの流行第4波のなかで開催され、会期中に山梨県知事からの臨時特別協力要請が発出されたことから、イベントの開催日程を変更した。
- ・新型コロナのなかで開催する展覧会ということで、館内の利用のあり方の工夫に努めた。具体的には展示パネルにはQRコードによって、利用者のスマートフォンによって展示情報の補助をおこなうなどの手法を試行した。

- 内容については、延期によって調査研究の進展を盛り込むことができるメリットもあったが、新型コロナの流行拡大がみられる時期であったことから、講演会の外部講師の招聘を見送る影響もあった。
- 同時期に若尾逸平の墓所（甲府市長禅寺内）が破却される事態があり、近現代の墓所の文化財についての価値や保護について再考する機会となり、社会的な反響のある展覧会となった。
- 展覧会の開催によって、若尾家の関係者の来館がみられ、研究上の情報や資料の収集の進展につながった。

令和3年度 夏期企画展
「特撮のDNA ～ゴジラ、富士山にあらわる～」
終了報告

1 概要

【内容】

昭和29年(1954)に第1作が公開されて以来、現在も新作が製作され続ける『ゴジラ』。ハリウッドでも製作され世界中に多くのファンを持つ『ゴジラ』は単なる娯楽大作ではなく、地球の環境・社会問題などを下地とした奥深い作品であり、その撮影技術等と併せ「ジャパンカルチャー」として注目されている。本展では、200点以上の貴重な資料から、製作の社会背景などの歴史的側面や日本が世界に誇る特殊撮影技術の数々を紹介する。また、製作に大きく関与した東宝創設者の小林一三(韮崎市)や怪獣造形作家の第一人者的存在の高山良策(西桂町)なども紹介して山梨独自の展覧会とし、国内外、県内外からの誘客を図ることを目的とした。

【期間】 令和3年7月10日(土)～8月7日(土)
会期日数29日(開館日数25日)
※本来は9月6日(月)〈会期日数45日(開館日数39日)〉までの開催だったが、「山梨県による新型コロナウイルス感染防止への臨時特別協力要請」(令和3年8月6日付)ならびに「山梨県新型コロナウイルス感染拡大防止への協力要請」、及び「まん延防止等重点措置」(令和3年8月18日付)を受け休館となったことに伴い、中止となった。

【主催】 山梨県立博物館、UTYテレビ山梨

【観覧料】 一般1000(840)円、大学生500(420)円
※ ()内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引
※ 常設+企画共通 一般1260円、大学生590円

【主な展示資料】

メカゴジラ(「メカゴジラの逆襲」1975)、ゴジラ頭部メカニック(「ゴジラ」1984)、レインボーモスラ(「モスラ3 キングギドラ来襲」1998)、キングギドラ頭部(「ゴジラ、モスラ、キングギドラ 大怪獣総攻撃」2001)、ゴジラひな形(「シン・ゴジラ」2016)など約250件。

【関連イベント】

○スペシャルトークショー(テレビ山梨主催) 場所:いずれも生涯学習室

① 日時:7月10日(土) 13:30～15:00

ゲスト:若狭新一氏(造形師)

参加者:32名

② 日時:7月31日(土) 13:30～15:00

ゲスト:浅田英一氏(特技監督)

参加者:27名

※8月21日(土)に予定していた手塚昌明氏(映画監督)は中止。

○学芸員による「展覧会の見どころガイド」

日時：7月25日（日） 14：00から40分程度

場所：生涯学習室

参加者：17名

※8月8日（日）、8月29日（日）は中止

- 【発行物】 公式図録（A4変形・192頁）、公式パンフレット（A4・24頁）
※いずれも館内特設ショップ（会期中）および「特撮のDNA」公式サイト
内にて販売

2 入場者数

【入館者数】 14,691名（1日平均入館者数：587名）

3 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 1200枚 B3 200枚
・ちらし A4 40,000枚

【マスコミでの紹介】

- ・テレビ山梨による段階的なテレビCMの作成、放映。5月頃より5秒のスポットCM、7月より15秒CM放映。
- ・テレビ山梨「スゴろく」内にて一般公開前日に会場中継。
- ・新聞記事（山日新聞、毎日新聞、産経新聞、山梨新報ほか、朝日マリオン・アサココ〈多摩地域〉によるチケットプレゼント）、共同通信社への情報提供。
- ・週刊朝日（見開き2頁特集記事）

4 総括

- ・本展は令和2年度夏期に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策により休館となったため中止、開催は令和3年度同時期に延期された。
- ・本展は笛吹市観光商工課、観光物産連盟とも連携して開催した（笛吹市ならびに笛吹市観光物産連盟共催）。それに関連し、広報面では観光物産連盟により開催前年度からチラシ作成・配布（表面は展覧会案内、裏面は石和温泉マップ）が行われた。開催時には石和温泉駅ガラス面に展覧会開催を告知するフィルムディスプレイ、市部通りや石和温泉街に広報用フラッグが掲示されるなどした。また、県内の商店や企業とコラボレーションしたグッズ（マルス山梨ワイナリー、大冠酒造、桔梗信玄餅など）も作成された。
- ・テレビ山梨によるテレビCMが2段階に分けて制作・放映されたことで、開催前より県民の期待感を効果的に高めることができた。特に博物館の敷地内にゴジラの足跡が出現する開催直前のCMは反響が大きく、来館者による問い合わせも多かった。県内マスコミとともに開催する展覧会の効果が大きく発揮されたと言える。
- ・会場内はほぼすべての資料が撮影可能であり、来館者によるSNS発信も行われた。また、それによる広報効果も大きかったと思われる。
- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため閉鎖してきたメインエントランスを本展より本格的に解放した。会期中はメインエントランスで入館者数カウントを実施し、

120名を上限に入館制限を行った。入館までの待ち時間の目安等、状況を館のツイッターで公開し状況の周知に努めた。会場内の混雑は緩和され、職員が常時対応にあたったためか入館待ちの行列にも混乱は見られなかった。

- 本展覧会期間中は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため、アンケートをインターネットよりの回答とした。そのため企画展に対する回答も非常に少なく、6件にとどまった。コロナ渦下、遠方で暑いにも関わらず来て良かったとの回答があった。

令和3年度 秋期企画展
「日蓮聖人と法華文化」
終了報告

1 概要

【内容】

鎌倉仏教の代表的な高僧として知られる日蓮は、法華経を中心とする布教の活動に努めたが、鎌倉幕府や諸宗派を批判したとして佐渡国（新潟県）へ配流された。様々な弾圧が続く苦難の中、佐渡で「開目抄」「観心本尊抄」などの重要書を著し、自信の信仰を確かなものとした。赦免されてからは甲斐国身延山（身延町）に入り、現在の身延山久遠寺の礎を築いた。本展では、今年生誕 800 年・佐渡入国 750 年の節目を迎える日蓮について、とくに縁の深い新潟・山梨両県において、その生涯を振り返るとともに、現在まで伝えられた法華経の信仰とその文化を紹介した。

【期間】 令和3年10月2日（土）～11月23日（火・祝）
会期日数53日（開館日数46日）

【主催】 山梨県立博物館、新潟県立歴史博物館、「日蓮聖人と法華文化」展実行委員会

【観覧料】 一般1,000（840）円、大学生500（420）円
※（ ）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引
※ 常設+企画共通 一般1,260円、大学生590円

【主な展示資料】

「日蓮聖人像（波木井の御影）」（身延町・久遠寺）、「日蓮聖人像（長谷川等伯筆）」（石川県・本住寺）、「仏涅槃図」（新潟県・本成寺）、「釈迦八相図」（重要文化財、身延町・久遠寺）、「三十番神像」（甲州市指定文化財・立正寺）、「釈迦如来立像」（山梨県指定文化財、身延町・本遠寺）、「日蓮聖人曼荼羅本尊」（新潟県・妙宣寺、身延町・久遠寺ほか）、「貞観政要」（重要文化財、静岡県・（北山）本門寺）、「日蓮聖人書状」（重要文化財、新潟県・妙宣寺）、「身延山守番帳」（東京都指定文化財、池上本門寺）、「日現上人像」（新潟県指定文化財、本成寺）、「七字の経石」（笛吹市・遠妙寺）、「常在寺文書」（山梨県指定文化財、富士河口湖町・常在寺）、「礼記正義」「本朝文粹」（重要文化財、身延町・久遠寺）、「翁三番叟絵扁額」（新潟県指定文化財、実相寺）、「夏景山水図」（国宝、身延町・久遠寺）、「御首題帳」（新潟県・本行寺）、「甲州身延山久遠寺惣絵図」（新潟県・善勝寺）、「小半鐘」（南部町指定文化財・内船寺）等 170 件。

【関連イベント】

○記念講演会

第1回「法華経の旅人」

講師：中尾堯氏（立正大学名誉教授）

日時：10月3日（日） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：40名

第2回「日蓮伝承と霊場の形成—佐渡・越後・甲斐—」

講師：望月真澄氏（身延山大学教授）

日時：11月6日（土） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：48名

第3回「佐渡と身延をつなぐもの—日蓮の書状をみる—」

講師：寺尾英智氏（立正大学教授）

日時：11月14日（日） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：38名

○学芸員による展覧会の見どころ解説

日時：10月9日（土）、31日（日）、11月21日（日）

13：30～15：00

場所：生涯学習室

○ナイトギャラリーツアー

日時：11月5日（金） 18：00～19：30

場所：企画展示室

参加者：7名

【発行物】 図録 A4版・200頁 2,000部（うち山梨分800部）

2 入場者数

【入館者数】 8,672名（1日平均入館者数：188名）

3 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 1,200枚 B3 200枚

・ちらし A4 40,000枚

【マスコミでの紹介】 ・新聞記事（山日新聞 連載など）

3 総括

- ・日蓮の生誕800年、佐渡入国750年を記念し、新潟県立歴史博物館と共同で実行委員会を組織する方式で開催した（新潟県博はR3.7.17～8.29）。
- ・開催にあたっては日蓮宗宗務院、日蓮宗総本山・身延山久遠寺、法華宗（陣門流）総本山・本成寺等の協力を仰ぎ、寺宝の出品、広報等のご高配を得た。広報面では、日蓮宗宗務院を通して国内の日蓮宗寺院（約5,000か寺）にチラシを配布したほか、山梨県内4宗務所を通して県内の日蓮宗寺院（約400か寺）にポスター・チラシを配布した。
- ・新型コロナの影響で当館も8月8日～9月12日に休館していたこともあり、開会当初はあまり多くの来場者は得られなかったが、11月以降は一般来館も徐々に増え、寺院の団体見学も入るようになった（10月：4,229名、1日平均162名。11月：4,443名、1

日平均 222 名)。

- 内容面では、特に日蓮自筆の曼荼羅本尊 (11 件) と書状類 (10 件) を出品することができ、日蓮の貴重な自筆資料に多く接する機会とした。また、特に佐渡と身延との関わりを重視する資料を重点的に選定し、山梨・新潟両県で開催する意義を強調した。
- 図録はミュージアムショップ販売分 650 冊が閉会前の 11 月 19 日に完売した。
- 日蓮に関する山梨・新潟両県の貴重な文化財を一堂に紹介するまたとない機会となった点が大きな成果であった。一方で課題としては、日蓮や日蓮宗、法華経といった、展覧会の前提となる基本的な情報の説明が不十分で、一般来館者にもわかりやすい説明を工夫する必要があった。
- 武田信玄と同様、日蓮も関係する周年が続くので、今回の特別展だけにとどまらず、常設展においても継続して日蓮関係の展示を充実させるほか、身延町での関連事業への支援を行うなど、県民に継続して関心を持っていただく活動を続けていきたい。

資料・情報委員会の開催状況について

1. 令和3年度資料・情報委員会委員一覧（五十音順、敬称略）

役職	氏名	専門分野	肩書
	新井 勝紘	日本近代史	元専修大学教授
	黒田 基樹	日本中世史	駿河台大学副学長
	小島 孝夫	民俗学	成城大学教授
	鈴木 卓治	情報工学	国立歴史民俗博物館教授
副委員長	鈴木 麻里子	日本美術史（彫刻）	山梨県文化財保護審議会委員
	内藤 正人	日本美術史（絵画）	慶應義塾大学教授
委員長	新津 健	考古学	元山梨県埋蔵文化財センター所長
	西村 慎太郎	日本近世史	国文学研究資料館教授

※任期は2年間（H2.4.1～R4.3.31）

2. 令和3年度 第1回（通算第33回）の開催状況

【開催期間】令和3年9月6日（月）から9月28日（火）まで

【開催方法】新型コロナウイルス感染症対策として書面により開催。

【審議内容】8件（296点）の収集資料候補（購入・寄贈・寄託）についての審議を行い、すべて収集が適切であると判断された。

【審議資料】

(1) 購入 2件

1	阿弥陀如来像 （方便法身尊像）	1幅	紺色の地に48条の光明を放ち、蓮華座上に立つ阿弥陀如来の絵像。山梨県の等力山万福寺由来のものと考えられる。
2	武田勝頼書状 （正月17日付、 一宮新太郎宛）	1点	上野国貫前神社の一宮新太郎が年頭の祈祷を行ったことに対し、返礼として太刀を贈るなどと伝えた武田勝頼の書状。

(2) 寄贈 2件

1	『木喰上人作 木影佛』 甲種	1冊	柳宗悦らが編集・刊行した木喰仏の写真集。300冊刊行された「甲種」（洋式製本版）のうち136番。
2	永井家文書	165点	明治・大正期に甲府新紺屋町に居住していた永井家に伝来した資料。

(3) 寄託 4件

1	弁財天女曼荼羅 版木 (山梨県指定文化財)	1面	蓮華座に坐した八臂の弁財天女像を中心に、その周囲に九軀の神像や童子たちを配する。板の上下に銘文が刻まれており、それにより文明 12 年(1480)に制作されたものとみられる。
2	佐渡辻家文書	8点	甲斐国出身で三枝氏一族との由緒を持ち、江戸時代前期に佐渡へ移って佐渡奉行所の役人を務めた辻家に伝わる古文書。
3	三日市場 小島家文書	2点	恵林寺(甲州市)の門前で大工を務めていた小島家に伝わる古文書。徳川家奉行連署状と小島家の先祖書の2点。
4	沓間家文書	117点	国分村(現笛吹市)の名主沓間家に伝わった古文書。『山梨県史』編纂時に調査・整理が行われている。

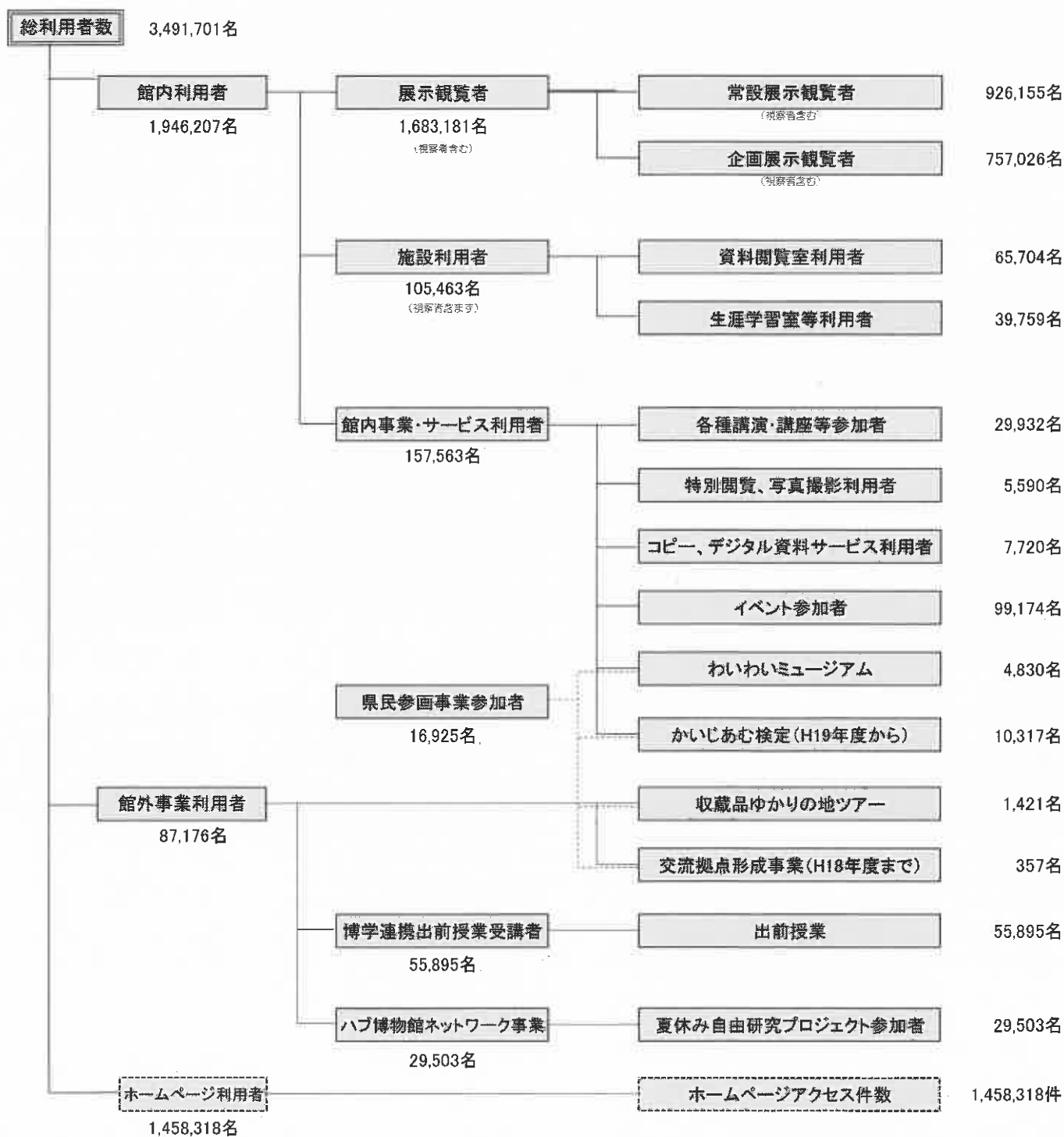
県立博物館における「利用者」の状況

平成17年10月15日～令和3年10月末日まで

令和3年10月末日現在

○博物館の利用者とは、博物館の施設、提供するサービスを利用した者および博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。
 なお、一部の利用については、総計に重複して表れる性質がある。

○ここに示す利用者数は、開館(平成17年10月15日)以来、令和3年5月末日までの状況をまとめている。



博物館の利用者の状況について

2021.10末現在 県立博物館

年度別統計

	館内利用者 (a+b+c)											館外利用者				入館者センサデータ	ホームページ利用者						
	展示利用者 (a)			施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)					出館授業等 貸し出しキット 外部講座	県民参画事業 取組品ゆかり の地ツアー 形成事業	ネット事業									
	常設展示 (券数)		企画展示 (複製)	資料閲覧室		特別講座 講座・講演会	特別講座 写真撮影等	イベント参加者	わいわいミュージアム 体験(館外)	かいじあむ 体験(館外)	コープシタル 体験(館外)				エコーシタル 体験(館外)								
	常設展示 (券数)	(複製)		資料閲覧室	利用者													特別講座 写真撮影等	イベント参加者	わいわいミュージアム 体験(館外)	かいじあむ 体験(館外)	コープシタル 体験(館外)	エコーシタル 体験(館外)
2021年度	61,208	58,022	25,456	1,230	29,498	1,838	1,428	958	470	1,758	471	138	244	435	470	0	29,935	2,282	2,282	0	0	105,000	
2020年度	36,078	33,842	20,669	1,345	10,833	895	359	67	292	1,877	185	400	100	627	278	287	8,342	1,953	1,953	0	0	110,718	
2019年度	124,689	110,406	51,450	2,805	52,583	3,568	5,046	3,200	1,846	9,237	1,602	748	729	5,072	271	815	72,756	9,486	4,701	0	0	110,903	
30年度	111,365	94,208	45,437	2,537	43,629	2,605	5,955	3,483	2,472	11,202	1,241	818	725	7,253	400	765	69,236	8,122	3,862	0	0	101,670	
29年度	131,264	111,640	55,118	2,396	50,704	3,422	4,745	3,191	1,554	14,879	1,190	310	728	11,604	240	807	86,552	6,646	4,207	0	0	98,200	
28年度	97,898	79,620	41,133	1,959	33,918	2,610	4,836	2,924	1,912	13,442	2,105	335	545	9,431	267	759	66,969	10,071	4,327	0	0	94,696	
27年度	155,517	140,658	57,879	1,705	77,538	3,536	6,032	4,140	1,892	8,827	1,309	306	343	5,673	396	800	111,441	5,303	4,434	0	0	91,493	
26年度	109,888	95,994	47,119	1,130	45,502	2,243	5,961	3,609	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	78,297	5,548	4,740	0	0	85,198	
25年度	121,898	106,041	57,860	1,864	43,886	2,431	6,605	4,067	2,538	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	88,910	7,220	6,350	0	0	83,998	
24年度	107,246	91,464	49,341	2,359	37,354	2,410	6,351	2,983	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	71,736	7,110	6,077	0	0	85,825	
23年度	112,026	96,890	49,858	3,030	40,232	3,770	5,758	3,354	2,404	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	75,053	4,658	3,721	183	0	84,159	
22年度	145,519	124,081	56,505	3,281	55,858	8,437	6,137	4,060	2,077	15,301	2,937	84	444	11,121	188	527	101,227	3,728	2,670	141	0	82,123	
21年度	145,172	125,928	59,508	1,876	59,780	4,764	6,394	4,399	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	99,290	5,194	3,871	274	0	83,449	
20年度	97,551	77,881	49,634	1,896	23,785	2,366	8,199	4,754	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	74,423	2,781	1,076	180	0	69,561	
19年度	126,055	109,082	66,291	1,602	39,305	1,884	10,422	7,306	3,116	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	95,348	4,833	1,317	166	0	72,373	
18年度	149,254	127,856	92,277	2,159	31,905	1,515	12,369	7,957	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	124,698	1,576	156	195	125	70,402	
17年度	113,579	99,768	66,274	1,172	32,304	18	8,866	5,252	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	85,348	665	151	282	232	28,570	
計	1,946,207	1,683,181	891,809	34,346	708,714	48,312	105,463	65,704	39,759	157,563	29,932	5,590	7,720	99,174	4,890	10,317	1,339,541	87,176	55,895	1,421	357	29,593	1,458,318

	館内利用者 (a+b+c)										入館者セン				館外利用者				ホーム ページ 利用者		
	展示利用者 (a)		施設利用者 (b)		館内事業・サービス利用者 (c)						サーデータ	出前授業		県民参画事業		ハブ博物館					
	常設展示 (券数)	企画展示 (券数)	資料閲覧室 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等 利用者	特別閲覧・ コピー・デジタル 参加者	わいわい ミュージアム 参加者	イベント 参加者	かいしあむ 検定	外部主催講座	職業見せかけ		交流製品	ネットワーク事業								
											常設展示 (券数)			企画展示 (観覧)	利用者	利用者	参加者	参加者		参加者	参加者
4月	13,271	12,705	277	6,647	571	252	226	28	314	137	23	63	91	0	0	451	87	87	0	0	13,408
5月	10,817	10,235	288	4,663	535	307	152	155	275	140	19	37	79	0	0	1,256	160	160	0	0	12,211
6月	2,176	1,954	178	0	0	84	0	84	138	44	25	29	40	0	0	999	645	645	0	0	11,245
7月	19,088	18,483	163	11,110	324	426	293	133	179	47	24	30	78	0	0	14,768	380	380	0	0	23,741
8月	5,438	5,280	125	3,151	106	125	115	10	33	0	8	16	9	0	0	4,050	0	0	0	0	22,282
9月	910	792	737	55	0	18	0	18	100	23	21	24	32	0	0	1,346	0	0	0	0	10,819
10月	9,508	8,573	4,200	3,927	302	216	172	44	719	80	18	45	106	470	0	7,065	1,010	1,010	0	0	11,294
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	61,208	58,022	25,456	1,230	29,488	1,838	1,428	958	470	1,758	471	138	244	435	470	29,935	2,282	2,282	0	0	105,000

令和3年度「みんなでつくる博物館協議会」の開催状況について

■第1回開催 令和3年4月22日(木)

方 法 対面

場 所 山梨県立博物館 生涯学習室

出席者 (委員) 小澤龍一委員長, 出澤忠利委員長代理, 浅川初美委員,
末木健委員, 丹沢良二委員, 辻茂委員, 戸田達昭委員,
畑大介委員, 初鹿紀子委員, 古屋久昭委員, 渡辺昭夫委員
(事務局) 守屋正彦館長, 新井達司副館長, 田邊優子総務課長,
田口明子企画交流課長, 横井利幸総務リーダー,
乙黒修企画交流リーダー, 込山たまき資料情報担当リーダー,
近藤暁子学芸担当リーダー, 望月大副主幹
丸尾依子学芸員, 松田美沙子学芸員,

内 容 ○第IV期評価(令和3~7年度)における利用者評価の具体的運用方法について

○特に、「通信簿ツアー」の運用方法について検討し、第IV期評価制度では次の変更を加えた。

- ・「通信簿ツアー」の回数…年2回から1回に減らす。
- ・対象人数…200名から実施日の来館者全員を対象にする。
- ・意見聴取会の実施…記入式の「通信簿」ではなく、利用者から直接意見をいただき、改善に結びつける会を設定する。
- ・「通信簿」の設問数…内容を精査し、約半分程度に減らす。

■第2回開催 令和3年6月

方 法 書面

内 容 ○「通信簿」の設問内容の確認について

○設問を減らしてサンプル冊子を作成し、内容についてご確認いただいた。